

## 第2学年算数科学習指導案

日 時 平成21年11月20日(金) 5校時  
児 童 2年4組 男17名 女16名 計33名  
指導者 白 井 めぐみ

### 研究課題

自分の考えを表現する力を育てるための指導の在り方

- 1 単元名 かけざん(2) 九九をつくろう (東京書籍 新しい算数 2年下)
- 2 単元について

#### (1) 児童観

学級の子ども達は、算数の学習について意欲的な子が多い。その日の学習課題を楽しみにしていたり、考えて分かったことは進んで発表しようとしたりする子が多くなってきている。しかしながら、自力解決の様子をみると、考えが最後までいきつかない子や自分の考えをことばや図でどう表したらよいか分からない子が見られる。

また、自分の考えを積極的に発表しようとして進んで手を挙げるが、実際に話すときになると何と云って発表したらよいか分からなくなってしまう子どもも見られる。

算数の学習についてのアンケートをみても、計算はできると感じているのに対して、図を書いて考えること、ことばで説明を書くこと、みんなの前で説明したり、話したりすることを苦手と感じている子は半数近くいる。

これらは、子ども達が、自分の考えを具体的なことばで表す経験が十分でないためだと考えられる。そこで授業の中で、書くこと、話すことを意図的に位置づけその中で思考を表現したり、整理したりしていくことで、自分の考えを表現する力が育つのではないかと考えた。

また、前単元のかげざん(1)において、かけ算九九の暗唱を楽しんで行っている一方、一つ分、いくつ分のとらえが難しかった子も見られた。かけ算の意味の理解について確実にやっていくことが必要であると考えた。

#### (2) 教材観

新学習指導要領第2学年の内容A(3)乗法において、「乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。」と示されている。また、A(1)数の意味や表し方においても「エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関連づけてみること」と示されている。

子ども達は、第1学年において「10を6個集めた数は60である」といったような数の理解と関連づけて、ひとまとまりになっている数とまとまりの個数から物の総数を求めるという乗法の素地となることは経験してきている。

また、前単元かけざん(1)においては、乗法の意味、及び5、2、3、4の段の九九について学習してきている。乗法の意味については、はじめはその理解が難しい子どもも数名いたが、繰り返し学習する中で理解できるようになってきた。

本単元の目標は、「乗法の意味について理解し、それをを用いることができる」ことである。

6、7の段の構成と習熟、8、9、1の段の構成と習熟、乗数と積の関係や乗法の交換法則、分配法則についての簡単な理解、倍の意味についての理解などが主な内容である。

本単元で扱う、6、7、8、1の段の九九の構成については、かけざん(1)で活用してきたきまりとともに、本単元で明らかにするきまりも用いて構成できるようにしていきたい。被乗数と乗数をいれかえても積はかわらないこと、及び、アレイ図などを利用して児童自らが九九を構成できるようにしていきたい。また、それを九九表にまとめたときも、それらのきまりを再発見できるようにしたい。乗法九九を使って様々な数の求め方を考えていくときは、子ども達がそれまで学習してきた九九を活用して、主体的に課題に関われるよう、また、自分の考えたことをことば・図・式を関連させながら表現できるよう導いていきたい。

#### (3) 指導観

各時間において、自分の考えを書く時間、話す時間を意図的に設定し、児童一人ひとりの表現する力を育てられるようにしたい。

書いて考える時には、次のことを視点としてもちたい。

- ・具体物を操作して考えること、操作したことをことばで表すこと

- ・考えを図で表すこと，図に書いたことをことばで表すこと
- ・考えを式で表すこと，式をことばで表すこと

また，子ども達の考えは，実際に話しながら，そして友達のことを聞きながら，考えが整理されたり，まとまったりしていくことも多い。そのため，隣とのペアで話すこと・聞くことの活動を多く取り入れたい。考えを話すことが難しい子どもには，考えの全てではなくても，一部だけでも話すことができるようにしていきたい。そして，これらの書くこと，話すことを通して，子ども達が操作したこと，図や式で表したことが，ことばと結びついて理解できるようにしていきたい。

さらに，自分の考えを持つためには，考えの根拠となるものが必要である。考えの根拠となる既習事項を振り返る場や環境も整えていきたい。

### 3 単元の目標

○乗法の意味について理解し，それを用いることができる。

#### 【関心・意欲・態度】

- ・乗法九九のよさに気づき，ものの個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。
- ・乗法について成り立つ性質を用いて九九を構成しようとする。
- ・九九表を用いたり，乗法九九を見直したりして乗法について成り立つ性質やきまりを進んで見つけようとする。

#### 【数学的な考え方】

- ・乗法について成り立つ性質を用いて，乗法九九の構成のしかたについて多様に考える。
- ・九九表から被乗数，乗数，積の関係や交換法則などの乗法について成り立つ性質やきまりをとらえる。

#### 【思考・表現】

- ・乗法九九（6・7・8・9・1の段）を構成し，確実にとらえることができる。

#### 【知識・理解】

- ・乗法について成り立つ性質やきまりを理解する。
- ・乗法九九の構成のしかたを理解する。
- ・整数倍の定義について理解する。

### 4 指導計画（17時間）

小単元	時数	学習内容
6の段・7の段の九九	1	○6の段の九九の構成
	2	○6の段の九九の記憶と適用
	1	○7の段の九九の構成
	<b>1/2 本時</b>	○7の段の九九の記憶と適用
8の段・9の段・1の段の九九	2	○8の段，9の段の九九の構成
	1	○8の段，9の段の九九の記憶と適用
	1	○1の段の九九の構成とかけ算の意味理解
ばいとかけ算	2	○倍の意味についての理解
九九のひょうときまり	1	○九九表を用いての乗数と積の関係と交換法則
もんだい	2	○乗法九九を総合的に活用しての問題解決
まとめ	2	○「力をつけよう」「たしかめよう」

